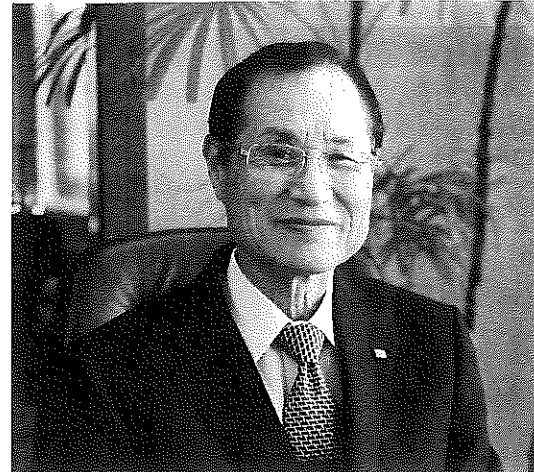


Business Gallery

第152回

エム・ケー(株)

—— 久喜市とともに「ネクストコア清久」を開発



代表取締役社長 小林 勤氏

埼玉県は2011年度工場立地件数で関東1位、全国4位。過去10年の本社転入超過数全国1位(1324社)の実績に見られるように企業に人気のエリアである。行政も積極的で埼玉県は田園環境と調和した産業基盤づくりを積極的に推進するため、2006年に「田園都市産業ゾーン基本方針」を策定している。この先導モデル地区である「久喜清久工業団地周辺地区」において、久喜市とともに民間事業者として「清久工業団地(ネクストコア清久)」を開発したのが、今回紹介するエム・ケー株式会社である。

このプロジェクトは区域の77%が農地で地元からの要望を受け、過去にも開発計画が持ち上がったが事業者が撤退。地元も市も最後の機会のつもりで要望し、2007年に埼玉県が庁舎内に推進体制を整備してから6年をかけ、現在までにほぼ完了するに至っている。

当社は今回のネクストコア清久のように、原則として建物などが建設出来ない市街化調整区域の開発に数多くの実績とノウハウを有し、事業を拡大している。最近手掛けて2013年3月にオープンした茨城県つくば市の「イオンモールつくば」プロジェクトは12年と特に長い時間が

かかったが、当プロジェクトも現在まで6年かかるなど、事業に要する期間は3～7年間かかるのが平均的である。この間地権者・事業者・行政機関の利害関係を調整し、さらには進出企業ともコミュニケーションを取りながら開発を進めるには、不動産に関する多面的で総合的なノウハウが欠かせない。だが、大手不動産企業では5年を超えるような中長期のプロジェクトは推進しにくいのが現状である。そこを当社は目先の利益を獲得する従来の「狩猟型」の不動産ビジネスでなく、種を蒔きじっくりと育てて収穫する「農耕型」ビジネスとして事業化しているのが特徴である。

今回も当社の果たした役割は大きく、三国コカ・コーラボトリングをはじめ大手企業の物流センターやキッコーマンの工場などが立地し、約4000人の雇用が見込まれている。企業に人気の埼玉県だが、今回の久喜市のように市街化調整区域の開発に悩んでいる自治体もあるだろう。そうした自治体と地主を企業に結びつけ事業化するのに欠かせないパートナーとして、エム・ケーへの期待が高まっている。



ネクストコア清久

企業概要

エム・ケー(株)

企業コード：983908041

所在地：東京都日野市大坂上1-30-28

代表者：小林 勤氏

設立：1988年(昭和63年)11月

年売上高：約73億2000万円

(2013年1月期、6カ月の変則決算)

URL：<http://www.mk-corp.co.jp/>